

社会技術研究開発事業
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査 事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題 (ELSI) への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

中村 晋一郎 (名古屋大学 大学院工学研究科 准教授)

2. 課題名

水の利用と管理に関する ELSI 検討の企画調査

3. 実施期間

2023(令和5)年10月1日 ~ 2024(令和6)年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況 (公開)

本企画調査は、人が生きるために不可欠な資源である水の利用と管理に着目し、気候変動と社会変動下における水の利用と管理に関する ELSI の予見と、それらを解決するためのフレームワーク、方法論を検討することを目標として実施されたものである。水をテーマとした普遍的な ELSI と個別の文脈における ELSI について E、L、S それぞれの視点から体系的に整理すること、地域史の視点から研究を進めるうえで、過去と現在の課題の連続性と異質性の両者に目配りしたプロジェクト計画の基盤を得ること、気候・社会変動の将来シナリオの作成にあたり、それが ELSI とどのように結びついていくのか、その議論を深めるための手がかりや研究手法を明確にすることなどを期待した。

企画調査の結果、フレームワークを構成する3つの手法における活用可能性を検証することにより、フレームワークの明確化と検討課題の導出がなされた。また、水道、治水に関して歴史事例を踏まえた論点の精緻化が行われたことや、アンケート調査により水に関する社会的公正性（分配的公正性）に対する認知が世代間で異なることを明らかにするという成果を得た。

一方で、水問題に関する ELSI を総合的に把握する枠組み・観点について明らかにする見通しが、本企画調査から十分に得られたかという点については懸念が残る。治水問題やそれに伴う環境汚染や水そのものの汚染などの課題についてはプロジェクト提案への展開が期待できる成果を得ている一方、干ばつ、渇水など、他の問題も含めた検討枠組みや導入すべき観点については、さらなる検討が望まれる。また、水資源の公正な配分に関連する政治的な決定の在り方や、過去と将来の社会構造の違いについても重要と思われるが、これらに対する有効な研究アプローチについても、今後の課題となる。企画調査で得た成果を生かし、これらの課題にも目配りした研究開発構想の提示を期待したい。

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB ディレクター

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 総合学術高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士
／九州大学 グローバルイノベーションセンター 客員教授

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(2024年3月末時点)